

1 子どもの遊びにおける危険性

1-1 子どもと遊びの重要性

子どもは、遊びを通して、自らの限界に挑戦し、その挑戦を通して危険に対する予知能力や事故回避能力などの安全に関する身体能力を高めることができます。また集団での遊びは、社会的ルールや自分の役割、責任などの存在に気づき、他者とのコミュニケーションを円滑に図る能力を身につけることができます。

1-2 リスクとハザード

1 遊びにおけるリスクとハザード

子どもは、遊びを通して冒険や挑戦をし、心身の能力を高めていくものであり、それは遊びの価値の1つではあるが、同時に危険性も内在しています。この危険性は子どもの成長に必要な危険性である“リスク”と不必要な危険性である“ハザード”に区分されます。リスクは適切に見守りつつ遊ばせ、しかしハザードは取り除く必要があります。

2 遊具に関連するリスクとハザード

遊具に関連するリスクとハザードはそれぞれ物的な要因、人的な要因とに分けることができます。例えば、通常子どもが飛び降りることのできる遊具の高さは物的リスクであり、落下防止柵を越えて飛び降りようとする行為は人的リスクです。一方、遊具の不良は物的ハザードであり、不適切な行動や服装は人的ハザードです。

2 遊具における事故と安全確保の基本的な考え方

2-1 遊具の安全確保に関する基本的な考え方

遊具の安全確保にあたっては、子どもが冒険や挑戦のできる施設としての機能を損なわないよう、リスクを適切に管理するとともにハザードの除去に努めることが大切です。

特に人的ハザードを除去するためには保護者や地域住民など「見守る立場の人」の配慮が必要不可欠です。

見守る立場の人は重大な事故につながる可能性のあるハザードについて理解し、安全な遊び方などを子どもたちに教えていただくなど、子どもが安全に遊べる環境を作るという大切な役割があります。

2-2 対象とする子ども

公園内の遊具は健康遊具など一部の遊具を除き、主に幼児から小学生（おおむね3歳から12歳）を対象としています。身体的な能力などが十分でない幼児（おおむね3歳から6歳までの子ども）については、必ず見守る人が付き添ってください。また、3歳未満の乳幼児にあっては、保護者による安全確保が必要なため、遊具を利用する場合には、常時保護者等とともに

利用してください。

1人で遊べないような小さな子どもを無理に遊具で遊ばせたり、明らかに年齢不適合な遊具で遊ぶことは危険を伴います。また遊び場で遊ぶ子どもを見守る場合は、子どもの年齢や遊びに伴うリスクの難易度に応じて「目が届く位置」か「声が届く位置」あるいは「手が届く位置」を探して、そこから子どもを見守ってください。

3 公園で遊ぶ前に

3-1 遊び場は安全か？あらかじめ確認しておこう！

- ① 年齢に適した遊具があるか？
- ② 遊具は壊れていないか？（壊れていたら公園緑地課へ連絡を）
- ③ 遊具は濡れていないか、砂などが撒かれて滑りやすくなっていないか？
- ④ 遊具の下や周りはコンクリートやアスファルトで固められていないか？
- ⑤ 遊具のそばに石ころやガラスのかけらなどは落ちていないか？

3-2 お天気は？

- ① 雨にぬれた遊具は滑りやすいので注意しましょう。
- ② 雨や雷が強いときは遊ばない。
- ③ 熱中症、紫外線にも注意しましょう。
- ④ 夕暮れ時は周りが見えにくいので注意しましょう
- ⑤ 日射によりスチールやステンレスの表面が高温になる場合があるため、やけどに注意しましょう。

3-3 遊び場へ行くときは？

- ① 安全な道をとおり、交通事故や不審者に気を付けよう。
- ② どこで、だれと、何時まで遊ぶかを保護者に伝えるように習慣づける。

3-4 遊ぶときの服装は？

- ① 上着の前を開けっ放しにしない。
- ② マフラー、ひも付きの手袋はとる。
- ③ かばん、水筒、ランドセル、ヘルメットを外す。
- ④ パーカーなど、首のまわりにひもやフードの付いた衣服を着ない。
- ⑤ 足に合った脱げにくい靴をはき、靴のテープや紐はしっかり結ぶ。
- ⑥ 苦しいときはマスクをはずす。

3-5 体調は？

- ① 適度に水分補給しよう。
- ② 体調が悪いときは遊ばない。

3-6 重大事故を防ぐポイント

- ① 頭に注意：頭部への打撲や衝突は、重大な事故につながります。子どもは頭が大きくバラ

ンスを崩しやすいので、落下事故に注意しましょう。

- ② 首に注意：首を絞めつけるような事故は、命にかかわります。遊ぶ際の服装はもちろん、遊具の隙間に首を挟んだり、首に縄などを絡ませないように注意しましょう。
- ③ 指に注意：手指、足指を挟んだり潰したり切ったりすると元に戻らない障害が発生することがあるため、注意しましょう。
- ④ 大人も注意：大人は、いつの間にか体力や運動能力が落ちていくため、事故に結びつく場合があります。滑り台などで子どもを抱えていると、体の自由が奪われ、敏捷な動きができないことを認識しましょう。

4 遊ぶときの一般的な注意

4-1 仲良く遊ぼう

- ① お互いに気を配って遊びましょう。
- ② 遊具で遊ぶときは順番を守りましょう。
- ③ 前の人を押しのけたり突き飛ばしたりしない。
- ④ 近くにいる子どもの動きに気を付けましょう。
- ⑤ 間をあけてあそぶようにしましょう。

4-2 遊具と遊び場を大切に

- ① 遊具を壊さないようにしましょう。
- ② 遊び場を汚さない。
- ③ 遊具を壊れやすくする卑劣ないたずらは、事故を誘発するので厳禁です。

4-3 代表的な遊具での注意事項

- ① ぶらんこ
 - ・飛び降りない・はりにぶらさがらない・こいでいるそばであそばない
- ② スプリング遊具
 - ・ひとりですわってのる・手をはなさない・あそんでいるそばにいかない
- ③ シーソー
 - ・たつてのらない・手をはなさない・下にもぐらない
- ④ 回転ジャングルジム
 - ・回っているそばであそばない・下にもぐらない・回しすぎにきをつけよう
- ⑤ すべり台
 - ・下からのぼらない・おりぐちであそばない・たったまますべらない
- ⑥ ロープウェイ
 - ・ひとりでのる・ケーブルをにぎらない・でだしにおさない
- ⑦ 鉄棒
 - ・上にたたない・あそんでいるそばにいかない・ぬれているときはあそばない

⑧ 雲梯

- ・上にのらない・あそんでいるそばにいかない・ぬれているときはあそばない

⑨ ジャングルジムなど登る遊具

- ・高いだんからとびおりない・あそんでいるそばにいかない・いちばん上にたたない

⑨ 太鼓はしご

- ・上にたたない・ぬれているときはあそばない・上にだれかいたら下にいかない

⑩ 複合遊具

- ・上にいる人、下にいる人、そばにいる人に気をつける・登ってはいけないところを登らない・狭い隙間に無理に頭や体を入れない

⑪ 砂場

- ・ひとに砂をかけない・ガラスや金属のかけら、犬猫の糞に気をつける

5 事故が起きたらなど

5-1 事故が起きたらすぐに助けを求める

- ① ケガをした子どもはなるべく動かさないようにしましょう
- ② ぶつけたところは水で冷やしましょう。
- ③ 血が出ている場合は水道の水で洗い、清潔な布で抑えましょう
- ④ 大きなケガの時には119番に電話しましょう。

5-2 その他の危険及び注意事項

- ① 交通事故に注意。道路に飛び出したりしない
- ② 知らない人には、ついていったりしない
- ③ キャッチボールをするときは、公園の近くの家や車にぶつけないような場所です
- ④ 夜遅くに音の出る花火などはしない

6 おわりに

公園には通常、公園管理者が常駐していないため、安全な遊び場を作るためには保護者や地域住民などの見守る立場の人の協力が不可欠です。子どもたちが一番身近な遊び場である公園で安全に楽しく遊び、たくさんのことを学んでもらうためにも、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。

【参考文献】

国土交通省「都市公園における遊具の安全確保に関する指針（改定第2版）」

URL : <https://www.mlit.go.jp/common/000022126.pdf>

一般社団法人日本公園施設業協会 「なかよくあそぼう あんぜんに 2022 年版」

URL : <https://www.jpfa.or.jp/activity/nakayoku/>